

■施肥

令和8年8月21日（金）、キャベツ畑において、下水汚泥肥料の施肥作業を実施しました。

写真1 キャベツ畑の様子



写真2 散布する下水汚泥肥料



写真3 散布の様子（1）



写真4 散布の様子（2）



本試験では、50aのキャベツ畑を3区画に分け、直径6mmのペレット化した下水汚泥肥料を基肥としてブロードキャスターで散布しました。作業中は、肥料が均一に散布されるよう、散布量を確認・調整しながら施肥を行いました。

今後は、キャベツの定植後に生育状況を継続的に調査し、下水汚泥肥料の有効性を検証していきます。

■定植

令和8年9月14日（月）、キャベツの苗を定植しました。

写真5 定植前のキャベツ畑



写真6 全自動野菜移植機による定植作業



写真7 区分1（化学肥料区）の草丈測定



写真8 区分1（化学肥料区）の株幅測定



写真9 区分2(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の草丈測定



写真10 区分2(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の株幅測定



写真11 区分3(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の草丈測定



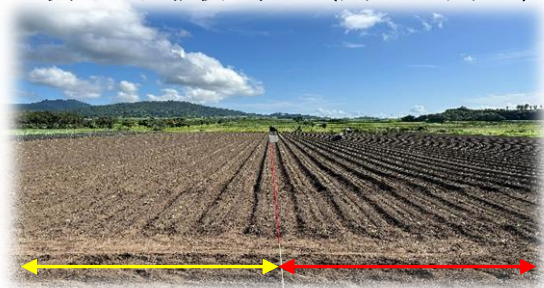
写真12 区分3(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の株幅測定



写真13 定植後の状況（区分1・区分2）



写真14 定植後の状況（区分2・区分3）



定植前のキャベツ畑は整然と畝立てされ、定植作業に向けた準備が整えられていました。定植作業は全自動野菜移植機を用いて行われ、植付けが不十分な苗については職員が手作業で補植を行いました。

定植時に調査した各区の苗の草丈は概ね4～5cm、株幅は概ね5～6cmでした。

また、定植終了後は苗の活着を促すため、順次かん水を実施しました。

今後は、活着状況や生育の推移を継続的に調査していきます。

■活着（定植後12日目）

令和8年9月25日、キャベツの苗の活着を確認しました。

写真15 区分1(化学肥料区)の草丈測定



写真16 区分1(化学肥料区)の株幅測定



写真 17 区分 2(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の草丈測定



写真 18 区分 2(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の株幅測定



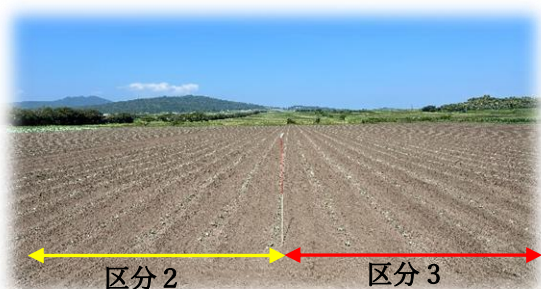
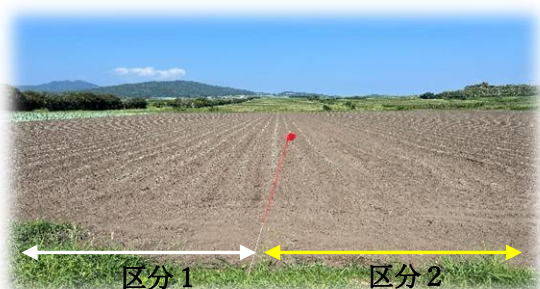
写真 19 区分 3(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の草丈測定



写真 20 区分 3(下水汚泥肥料+化学肥料区)
の株幅測定



写真 21 活着後の畑の状況(区分 1・区分 2) 写真 22 活着後の畑の状況(区分 2・区分 3)



定植後 12 日目のキャベツ畑では、全ての区で苗の活着が確認されました。各区の苗の生育状況は、草丈が概ね 5cm、株幅が概ね 8cm でした。

また、調査時までの期間は降雨が少ない状況でしたが、生育に大きな影響は見られませんでした。今後は、キャベツの生育状況や結球の進行を継続的に調査していきます。